

令和 5 年度 第 1 回

武蔵村山市総合教育会議 会議録

令和 6 年 2 月 1 3 日

武蔵村山市

令和5年度第1回武蔵村山市総合教育会議

1 日 時 令和6年2月13日(火)

開会 午後3時57分

閉会 午後4時26分

2 場 所 武蔵村山市役所3階 301会議室

3 出席委員 山崎 泰大 池谷 光二

大野 順布 杉原 栄子

比留間 雅和

欠席委員 潮 美和

4 説明のため出席した者の職氏名

教育部長 鈴木 義雄 学校教育担当部長 東口 孝正

教育総務課長 佐藤 哲郎 指導・教育センター担当課長 加藤 由裕

5 会議に出席した事務局の職員

企画財政部長 雨宮 則和 企画政策課長 平崎 智章

企画政策課企画政策係長 久保田智子

議事日程

1 開 会

2 議 題

まちづくり学習について

3 その他

4 閉 会

◎開会の辞

○**雨宮企画財政部長** 本日の会議に際して、傍聴の申出はございませんので、御報告させていただきます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

○**山崎市長** 開会に先立ちまして、潮教育委員から欠席の連絡を受けましたが、武蔵村山市総合教育会議設置要綱第 4 条第 3 項の規定に基づき、特別の事由があると認め、本日の総合教育会議を開催することといたします。

ただいまから、令和 5 年度第 1 回総合教育会議を開会いたします。

本日は御多用の中、令和 5 年度第 1 回総合教育会議に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

早速ですが、会議次第に従いまして会議を進めてまいります。

なお、本日は、説明員として、教育部長、学校教育担当部長、教育総務課長及び指導・教育センター担当課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。

◎議題 まちづくり学習について

○**山崎市長** 本日の議題につきましては、「まちづくり学習について」でございます。

それでは議題について説明員から説明をお願いいたします。

○**加藤指導・教育センター担当課長** はい。それでは「まちづくり学習」について、御説明いたします。

教育委員会では、「武蔵村山市第五次長期総合計画」を受け、将来の武蔵村山市を担う子どもたちが市に愛着をもつとともに、自分たちが住む市の目指すべき将来について考え、意見を表明していくことが、新たな将来都市像の構築及び実現につながると考えました。

そこで、市内小・中学校において、本市への理解を深めるとともに、まちづくりに参画していく学習を、「まちづくり学習」として定め、実施することといたしました。また、「まちづくり学習」では、各教科及び生活科、総合的な学習の時間において、これまで各校で積み上げた成果を生かしつつ、内容に「まちづくり」の視点を取り入れ、計画的に進めることといたしました。

令和4年度は市内小学校4校で先行実施をいたしました。先行実践の中から、各校で「どのようなことを推進することができるか」を学校と協議しながら計画を立てさせ、令和5年度から全校実施としております。

続きまして、令和5年度の取組状況について、資料に沿って御説明いたします。

はじめに、資料1となります。資料1を御確認ください。着座にて失礼いたします。

資料1は、今年度各校で取り組んだ「まちづくり学習」の主題、取組内容を掲載しております。実施学年については、各学校に任せておりますので、まちづくり学習を実施していない学年もございます。

本日はその中で学校の取組についてスライドを交え、御説明いたします。それでは、スライドの方を御覧いただきながら、説明してまいります。

はじめに、第三小学校です。

第三小学校につきましては、ゼロカーボンシティチャレンジ校としての取組を行っております。4年生では、「花で市を盛り上げよう～グリーンシティ作戦」という計画を立てました。地域の方の協力を得て花を育て、摘み取った花を加工し、グッズ作りやフラワーアレンジメントに取り組み、学校公開で公開しております。また、6年生は、イオンモールむさし村山において、自宅から持ち寄ったものをもとに、フリーマーケットを開催いたしました。こちらの取組については、山崎市長、池谷教育長にイオンモールまで御来場いただいております。

次に、大南学園第七小学校です。

4年生では、社会科の「ごみのゆくえ」の学習から、ごみ減量の取組について学習を発展させました。ごみ対策課の協力を得て、市内のごみの現状を学び、ごみ減量のためにできることとして、3R盆踊りの考案、イオンモールむさし村山「つむぐ夏まつり」にて「3R盆踊り」の発表を行っております。この学習は運動会にも波及し、演技種目に取り入れたり、リユースの体験活動として古着を活用した衣装づくりを行ったりしております。

次に、第九小学校です。

第九小学校では、「地域に愛着をもち、自分の住む地域への将来について考える児童の育成」をテーマに、まちづくり学習を中心とした校内研究を実施しております。各学年で地域と関わる学習を進めておりますが、6年生ではモノレールの延伸を踏まえたまちの発展について学習しております。この学習については交通企画・モノレール推進課の協力を得てモノレールの進捗状況などの説明を行っていただいております。また、学習をとおして本市の良い点について分かったことを、学習発表会で発表しました。第九小学校につきましては、本

市教育委員会「特色ある学校づくり推進校」として、令和6年度も引き続き校内研究でまちづくり学習を実施し、研究成果を令和6年11月22日（金曜日）に発表する予定です。

次に、雷塚小学校です。

雷塚小学校では、令和4・5年度東京都人権尊重教育推進校として研究を進めておりましたので、まちづくりにも人権教育を意識したまちづくりを実施しております。4年生では、老人ホームとの交流や車いす体験を通して、誰もが住みやすいまちづくりとして学習を進め、市内のバリアフリーをすすめるためのスロープの設置などの提案を行うことができました。

次に、第三中学校です。

第三中学校につきましては、ゼロカーボンシティチャレンジ校として、今年度は全学年で環境問題に取り組んでいます。1年生はSDGsチャレンジ週間の中で、自分たちができることについて考え、実行しました。2年生は校外学習として実施した東京体験学習において、都内のゼロカーボンについて調査し、学年内で成果発表を行いました。3年生は修学旅行に合わせて脱炭素の学習に取り組み、京都宿舎においても京都のゼロカーボンについて話を伺う学習を行っております。

また、三中校区として、ゼロカーボンシティチャレンジ校3校による共同の取組として、積み木づくりを実施しております。こちらは、奥多摩で間伐された木材を、児童・生徒の手でやすりがけし、手作りの積み木を作っています。この積み木は、市内保育園等に寄附しております。

続きまして、資料2に戻りまして、「まちづくり学習依頼用フォーム」を經由した学校から市への依頼内容について御説明いたします。

「まちづくり学習」を進めていくに当たり、学校が市役所の関係各課や地域の方に講師依頼を求めることも増えると考え、LOGOフォームによる取りまとめを行っております。LOGOフォームを通して学校が求める関係課や地域人材について、依頼内容を申請していただいております。その後、教育指導課から企画政策課へ情報提供し、学校が必要とする関係課とつなぎました。依頼のあった関係課には、市の状況説明などを授業の中で行っていただいております。また、学校から直接関係課へ依頼のあった内容、これはLOGOフォームを通さない依頼についても、把握している範囲で記載しております。教育指導課といたしましては、今後もLOGOフォームを活用した申請方法を学校に周知し、関係課への円滑な接続を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、資料3は教育長と中学生との意見交換会の概要についてでございます。

教育長と中学生が意見交換を行い、中学生の考えを把握するとともに、今後の教育施策や「まちづくり学習」の推進に役立てることを目的として、令和6年1月17日（水曜日）に実施いたしました。中学生の参加者については、各中学校代表、計11名です。

協議では、まず、「市内に遊ぶ場所がない」「室内プールがほしい」「勉強する場所がほしい」「授業の在り方」などについての意見、要望がございました。次に、資料の裏面になりますが、中学生からの提案でございます。各学校では様々な特色ある取組を実施しているものの、他校の取組、例えば村山学園では「やってみカンパニー」の取組によるジャム作り及び販売、大南学園第四中では学習で関わりができた老人ホームへ年賀状を出す取組、この度の能登半島地震を受けて実施された、生徒の主体的な募金活動、第五中ではレスキュー部の活動など、多くの好事例が行われているにもかかわらず、他校の取組については知ることがなく、参加生徒は意見交換の中で初めて知ったという声がありました。また、各校の中学生の活動アピールとして、市内中学生新聞を協力して作成するといった提案もございました。

このことから、何らかの形で、生徒同士が互いに取り組んでいる活動内容を把握することが、各校で行われている生徒会活動やまちづくり学習に波及するのではないかとの話がございました。

最後に、その他でございますが、学校に関わる以外では、市の企業連携が他の自治体に比べ少ないのではという意見がございました。教育指導課といたしましては、今回行った意見交換会での提案等を踏まえ、次年度のまちづくり学習に生かしていきたいと考えております。

最後に、令和5年度の実施状況から、教育指導課で把握している成果と課題について報告いたします。

まず、成果についてです。これまで学校が総合的な学習の時間等で実施してきた地域学習が、市や地域の将来の方向性や課題を理解するという「まちづくり学習」としての新たな視点を取り入れた学習に派生することができました。初年度ということもあり、まずは地域やまちを知るという活動から入る学校が多くありました。コロナ禍においてなかなか実施できなかった「人とのつながり」という面において、再構築する必要があったこともあり、このタイミングでまちづくり学習を推し進められたことは学校に良い結果をもたらしたと感じております。ただいま成果について取り上げました学校以外においても、机上の学習で終わらず、関係各課や地域の方とのつながりをもつということができています。

令和5年度の教職員夏季研修においても、まちづくり学習の推進として学校からの発表及び各校との取組共有を行っておりますが、今後も各校の取組については教育指導課でまとめたり、他自治体の実践についても各校に周知を図ったりするなど、機会を捉えて指導を行ってまいります。

次に、課題でございますが、先ほどL o G oフォームでの申請について御説明いたしましたが、教育指導課としても地域人材の発掘を学校と共に行いながら、共有を図っていく必要があると考えます。また、市内にとどまらず、学習の進展につながるような人材がいれば、必要に応じて学校につなげていくことも考えられます。学校については、今回小学校の事例を多く御説明いたしました。小学校の方が時間的余裕や教科内でのやりくりができ、様々な学習に波及させやすいことが分かりましたが、中学校において教科等のしぼりやこれまで行われてきた学校行事の取組があり、なかなか広げにくい面も理解することができました。生徒との意見交換会でも意見として出ておりましたが、中学生が日常の学習では小学校と比べてあまり校外に出ない状況があります。これから少しずつ取組は変わっていくとは思いますが、政治や世界情勢の知識などは小学生よりも中学生の方が高いため、各校に任せるだけでなく、市側からも事業への参画を促進するなどの工夫を行っていくべきではないかと感じております。また、三中校区でのゼロカーボンシティチャレンジ校での環境問題やSDG sの実践は他校でも実施可能でありますので、事例共有を行ってまいります。

2月の校長会において、まちづくり学習の成果と課題について校長から聞き取りを行っております。学校からは、学校側が考える地域連携やまちの発展について、必ずしも地域が同じ考えではないことが分かり、まちの発展に視点を置きすぎると進まなくなってしまうこと、学習はトライアンドエラーの繰り返しにより児童・生徒が学ぶものではありませんが、地域や講師としておいでいただく方との連携は失敗ができない分、教員がなるべくうまくいくように計画しなくてはいけないのではと悩んでいるとの課題をいただきました。ただし、学習の中でうまくいかなかった点や、失敗できないことについては児童・生徒なりに、どうしたらうまくいくかという思考を働かせている様子がたくさん見られるようになっており、考える力が育成されているという評価もいただいております。

教育指導課としては、児童・生徒が主体的に取り組んでみたいと考えるものがあれば、学校と連携し、実践していきたいと考えておりますので、市長、副市長、また関係各課には引き続き市内学校が取り組む「まちづくり学習」への御理解・御協力をお願いいたします。

報告については以上でございます。

○山崎市長 ありがとうございます。ただいま説明がありました。皆様から御意見・御質問

等があれば、お願いいたします。

○大野委員 よろしいでしょうか。

○山崎市長 はい、大野委員。

○大野委員 まずは、質問を一つ。その前に、はじめにこのまちづくり学習でございますけれども、自分たちの暮らしている武蔵村山市についての学習ということで、郷土愛を育む、素晴らしい授業であると感じています。その上で、資料を拝見しておりまして、各学校がいろいろなテーマを設定されていることにまずは驚きました。つつい「まちづくり」と言いますと、モノレールが通ったらというような都市計画と言うのでしょうか、ハードなところを考えると、地域の農業、それから村山大島紬、かてうどんのようなソフトなものまで、多様なテーマが設定されているなど感じたところでございます。

そのテーマの設定がどのようになされているのか、お聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○加藤指導・教育センター担当課長 はい。それではお答えいたします。多様なテーマというところでありますが、これまでは学校では「総合的な学習の時間」等において、この学年ではこういう学習をするというような形で計画を組んできましたので、例えば5年生につきましては、本市教育委員会が取り組んでいる水田学習であるとか、地域の文化行事といったものにまちづくりを加えて派生させていくといった取組を行っております。また、これまでゼロカーボンシティチャレンジ校の取組ではございますが、中学校の方では環境問題等、理科や総合的な学習の中でも触れておりますので、派生して、更に自分たちの市においてできるものは何かということを考えていたりしているところでございます。以上でございます。

○大野委員 よろしいでしょうか。

○山崎市長 どうぞ。

○大野委員 ありがとうございます。そういう積み重ねの中から子どもたちが自主性をもってこういうテーマが出てきた、そのように理解いたしました。大事なことだと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○山崎市長 他にはどうですか。

○比留間委員 はい、市長。

○山崎市長 はい、比留間委員。

○比留間委員 先ほど大野委員からもございましたが、私もモノレールとか、本町・榎地区における区画整理事業など、都市計画の姿がだいぶ見えてきたところかなと思うのですが、つい我々大人だと、「まちづくり」はハード面とイコールということになってしまっていますが、

今、手探りの状況の中で、まちづくり学習というものが始められたばかりかと思いますが、街並みがかなり変化している状況の中で、子どもたちがそういったものにいかに興味だったり関心をもっているか、そのような状況がありましたら、教えていただきたいと思います。

○加藤指導・教育センター担当課長 はい、お答えいたします。教育指導課の方でも、各学校の取組については、都合がつくところで授業を見させていただいているところです。関係課が説明で伺ったときには、子どもたちはモノレールが通ることは分かっているけど、モノレールが通ったときにどのようなまちの姿になっていくか、こういったところはあまり理解をしていなかったのので、関係課から話を受けたときに、非常に驚いている様子が分かりました。

また、今後、モノレールが通ったときのまちの様子について、どんなことをしていかなければならないのか、そういったところはかなり説明がありましたので、今後、自分たちが大人になるまでに、どんなタイミングでまちが変わっていくのか、必要なものが何か、そういったことについては、かなり考える機会を与えられたのではないかと思います。以上でございます。

○比留間委員 ありがとうございます。今の子どもたちが、10年20年後には働き盛りになるかと思いますが、その頃にはだいぶ武蔵村山市も状況が変わっていると思います。ぜひこういった学習の中から、自分たちがどうやってまちをつくっていくかについても、サポートできればと思います。よろしくお願いします。

○杉原委員 はい、市長。

○山崎市長 はい。

○杉原委員 文部科学省主催の研究協議会がございまして、その分科会で「地域と学校の連携・協働について」というテーマで話し合いがあったのです。私の方から、武蔵村山市の教育指導課でまとめていただいた資料をもとに話させていただきました。皆さんびっくりなさいまして、大体まちづくりというと、大人が子どもに対して考えてあげるものなのですが、子どもが主体的に考えて、子どもの視点からまちづくりを考える、取り組むというのは、未来につながるということで、大変感心されました。

また、市長も参観なさったり、市の指導主事の先生が授業なさったりされているのですが、武蔵村山市の第五次推進計画の内容など、子どもたちが学ぶことができ、どんな風に市の行政が動いているかということ、小さい子どもなりに、視野を広くもつことができるということで、素晴らしいと思いました。

第五次推進計画などもお話くださっているようですが、子どもたちの反応はありましたでしょうか。

○加藤指導・教育センター担当課長 はい、お答えいたします。令和4年度のお話ですが、私が指導主事として、第一小学校で先行実施した事例のときに、第五次推進計画というものがあって、それに基づいて、こういう計画をしているんだよという話をしたのですが、その中で非常に子どもたちが驚いていたのは、給食センターの建替えをしていることを全く知らなかった、一小と防災食育センターが割と近くにあるにもかかわらず、知らないのだなということがあったので、そこで私が感じたのは、市がやっていることというのは、「モノレールが通る」といったところは、子どもたちは理解しているのだろうけれども、細かなこと、例えばごみ対策課であるとか、モノレール推進課であるとか、そういった課が自分たちの身近につながることをやっていることを全然分かっていないのだなと感じて、そのあたりはもっとアピールをしていかなければいけないのかなと感じたところがございます。

○杉原委員 ありがとうございます。行政がどのように計画をして、構想を練って進めているかということ、子どもたちが学べるというのは素晴らしい機会だと思いました。よろしくをお願いいたします。

○山崎市長 はい。他にはよろしいですか。

皆様の意見をいただいたということで、まちづくり学習を進めていただいて、私共としても市としても、市の計画なりを子どもたちに知っていただく良い機会を得たのかなと内心よかったです。

そもそも「まちづくり」というのは、名称は私の方では付けられなかったのですが、教育長といろいろお話させていただく中で、武蔵村山市は自治会が消えてなくなった地区もございまして、どんどん加入率が減っていく、地元意識がなくなっていくのではないかと、それから地域でいろいろなお祭りがあるのですが、伝統芸能になったりしている中で、後継者が全くいないという、大人たちの苦しみもあるようで、どうしたものかという話をさせていただいている中で、モノレールがこれからどんどん進んでいくわけですが、あと10年で駅ができて開業するであろうと、そういう段階では10年というと、今の6年生が12歳ですから、大学卒業するくらいの年になる。そのときに、小学生のときに村山のモノレールを含めてまちづくりをみんなで話し合ったとか勉強したなということで、愛着をもってもらったりですね、地域そのものを考えていただくというのはどうですかね、というようなそういう話を教育長にさせていただいて、教育長にはいろいろ考えていただいて、学校の方でも取り組んでいただけるようになったということで、それはそれで、今、杉原先生から文科の方でも評価いただいたということで、我々は教育者ではないので表現ができないのですが、よ

かったなくらいのところではあります。

また、一小も九小も見させていただいたりして、一小の子どもなどは我々が考えているような、新青梅街道が賑やかになって、旧青梅街道の方はさびしくなって、三小あたりは高齢化してしまって人がいなくなってしまうのではないかとかですね、どうしたらいいですかと聞いたら、もう1個あそこにイオンモールをつくれればよいと。それと、武蔵村山には水族館をつくったらどうかと言っていたら、稲城にジャイアンツが水族館をつくるという話もあって、すごい発想だなと思ったことがありました。九小も、うどんだとか、九小の周りの畑は残すべきだとかですね、モノレールの駅ができて緑は減らしてはいけないなど、子どもなりにしっかりとした考えをもってもらっているということで、ひいて見ると「子ども」ではないなと思いました。

これから市にとっても有意義な事業をやっていただいているということで、私が言うのも変ですが、感謝しております。ありがとうございます。今、皆さんの意見は、いろいろな意見というわけでもなかったのですが、肯定していただいている意見だけだったのですが、今後ともこのような方向で進めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

○池谷教育長 ぜひその方向で進めさせていただければ。

○山崎市長 今後ともよろしくお願いします。

◎その他

○山崎市長 次に、「その他」として何かございますか。

(発言する者なし)

○山崎市長 よろしいですか。事務局からは何かございますか。

○平崎企画政策課長 特にございません。

◎閉会の辞

○山崎市長 特にないようでございますので、これをもちまして令和5年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。本日は御出席をいただきまして大変ありがとうございました。お疲れ様でした。

午後4時26分閉会